

# 現代文学と短歌教材

菅 邦男

宮崎大学助教授

## 一 実感性の乏しい教科書教材

教科書の短歌は、何故いつまでも正岡子規であり伊藤左千夫なのだろうか。ちなみにある出版社の高校国語教科書を見てみると、「国語I」が、正岡子規、長塚節、与謝野晶子、北原白秋、斎藤茂吉、石川啄木、「国語II」が、伊藤左千夫、島木赤彦、若山牧水、釈迦空、会津八一となっている。みな明治生まれの歌人である。歌人として評価の定まった人の、評価の定まった歌を、ということだろうが、少々固定化しすぎてはいないか。

海恋し潮の遠鳴りかぞへては少女となりし父母の家

与謝野晶子

垂乳根の母が釣りたる青蚊帳をすがしといねつたるみたれども

長塚節

二つとも有名な歌だが、これで何を教えようというのだろうか。いずれも成人した人間の心情である。現在家において成長している子供たちに「海恋し潮の遠鳴りかぞへては」と言ってみたところで、少女期を回想している大人の心情が実感出来るはずがない。(もちろん理解は出来る。将来家を離れたとき、自分もこのように思うかもしれないといった理解である。)

「垂乳根の」の歌に至っては、蚊帳など見たこともない子供たちは、頭で理解する以外に手はない。同じ晶子の歌でも、なにとなく君に待たるるここちして出でし花野の夕月夜かななどは、まだしも実感として受け取れるだろう。あるいは正

岡子規の

くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる

なども。しかし多くは実感よりも理解する「教材」である。

昼ながら幽かに光る螢一つ孟宗の藪を出でて消えたり

北原白秋

この歌が高校生に実感できるとは思えない。大人でも少ないのではないか。

高校生向けの学習参考書には、「幽女を思わせる歌であり、この歌に、ありのままの現実的な情景を見るよりも、むしろ象徴的なものを読み取るべきであろう」とある。その「読み取るべき象徴」とは何なのか、それは書いてない。これなど、この歌だけからだど理解も困難なのではないか。

つまり、教科書は、過去の評価の定まった歌人にどういった歌があるか、それを教えようとしているのである。言ってみれば、文化遺産の継承が目的なのである。

むろんそれも大事である。が、もっと文学作品として、ストリートに現代の若者の心を打つ作品があっても良いのではないか。

## 二 俵万智『サランダ記念日』

現代の若者の心を最もストリートに打った歌集は、言うまでもなく俵万智の『サランダ記念日』である。

俵万智の短歌は分かりやすい。表現が平易というだけな

く、直接心に響いてくる分かりやすさである。もって回った言い方もなく、「私情の表出」とやらの奈落の底へ落ちていくような重苦しさもない。

砂浜のランチついに手つかずの卵サンドが気になっている陽のあたる壁にもたれて座りおり平行線の吾と君の足捨てるかもしれぬ写真を何枚も真面目に撮っている九十九

里浜

寄せ返す波のしぐさの優しさにいつ言われてもいいさようなら

俵万智の短歌は、「恋」の歌でありながら、そこにはいつも「思いつ」になり行くものとしての意識、認識がある。それゆえの不安定感がある。それはさり気なく歌いこまれる。

「手つかずの卵サンド」「平行線の吾と君の足」「捨てるかもしれぬ写真」「いつ言われてもいいさようなら」

それが若者の心を惹くのではないか。

その恋も、決して積極的でもなく情熱的でもない。そこにあるのは、「待つ」姿勢であり、「もたれる」姿勢である。

君を待つ土曜日なりき待つという時間を食べて女は生きる湯豆腐を好める君を思いつつ小さな土鍋焼いており

真夜中に吾を思い出す人のあることの幸せ受話器をとりぬこの時間君の不在を告げるベルどこで飲んで誰と酔っている

君を待つことなくなりて快晴の土曜も雨の火曜も同じ

こうした「待ち」「もたれ」の姿勢が若い女の子の共感を呼ぶのではないか。そしてそこに描かれているのは、

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたかき  
という、小さなほのぼのとした愛である。  
愛ひとつ受けとめられず茹ですぎのカリフラワーをぐずぐずと噛む

恐らく、これが『サラダ記念日』の本質である。この歌集の人氣を一言で言うならば、この「愛ひとつ受けとめられず」「ぐずぐずと噛む」揺れ動く心なのではないか。

### 三 清野幸弘氏の実践―オレたちのサラバ記念日

宮崎県立高原畜産高校の清野幸弘氏は、『サラダ記念日』をもとに、創作指導を行っている。三年生なので「オレたちのサラバ記念日」。前任校・都城商業高校での実践記録がある（一九八八年一月より毎年）ので、紹介してみたい。これを見ると、『サラダ記念日』がいかに教科書教材と違って若者をとらえたか、よく分かる。

はじめての心の内を字でつづる五七五七七とは素直に並はず  
冬過ぎて「蛍の光」歌うころ君の心は異国の彼方  
加治木瑞枝

この距離が一番いいと思うから何も言わない何も言えない  
有島かな子  
萩原秀美  
延岡駅に降り立てば車で来ている父と母「ちよつと老けたかな」と言ったら怒るかな笑うかな

ない。生徒たちは、教科書教材では引き出せなかったこれだけの創作能力を潜在的に持っていたのである。

清野氏も「これまで短歌作りを課すと、教室には重苦しい雰囲気が高い、『なりけり』といった文語調のものを一首作り上げるのが関の山だった彼らが、水を得た魚のように生き生きと取り組み始めたのです。

自分の心の内を、厳密な定型にとられず、日常の言葉で表現していいのだ、という安心感が解放感をもたらし、創作意欲をかきたてたようです。（「零余子」No.15）と言っている。逆に言えば、生徒たちにとって、教科書教材がいかに実感に乏しいか、ということである。

最後に紹介した西ヶ野裕子という生徒は、『小倉百人一首』を下敷きにした作品（四首）まで作っている。  
めぐりあいて三とせ過ぎるも迫りくる別れののちにいつあえるやら

立ち別れわれ赴くは神戸港六甲山に霧島重ねしのぶだらう  
俵万智の「あいみでののちの心の夕まぐれ君だけがいる風景である」に触発されたものだろうが、やり方によっては、『サラダ記念日』から古典への橋渡しも可能である。



すがくにお 一九四七年宮崎県生まれ。大阪教育大学大学院教育学研究科修了。  
近著に『詩教育の理論と実践』（教育出版センター）がある。

まっさきに階段のぼり見る部屋は前と変わらぬ配列している  
久しぶり家族一緒の夕食はいつもと違う食べかたをして  
「また今度帰ってくるね」と部屋中に息をのみこみ玄関を出る  
中尾紀子  
あと少し卒業式のゴールのテープ笑顔で切ろうか涙で切るか  
木浦克子  
軒下で二人並んで雨宿り少し気になる見知らぬこの子  
内田憲良

受かるかな恋の勉強したけれどあなたの心の共通一次  
カレーパン空を飛ぶのはピーターパンタマゴ焼きならフライパン  
津曲靖之  
ガタゴトと走る列車に心ゆれ着いてくれるな十八の春  
村永留美子  
ふられた日ハウンド・ドッグのバラードを叫んで歌いばあちゃんおどろく  
野口寿一郎

父母召喚のその朝に「何着て行くか」とうきうきしながら問いかけるうちの母ちゃん  
上石敏文  
さよならは別れの言葉じゃないのよと昔歌った薬師丸思  
金森美幸  
う  
光放つ竹をみつけてななめ切り翁のうでが確かであった  
どうなるどうするどうしよう！どうしてないの恋の公式  
西ヶ野裕子

作品のごく一部だが、実に自由にのびのびと歌っている。  
『サラダ記念日』のすごさである。教科書教材ではこうはいか

### 四 現代のテーマを

しかし俵万智のような歌だけが若者の胸を打つわけでもない。そこに現代的なテーマがあれば実感として短歌をとらえられるはずである。例えば、

祖母が口くろくよごれて言う聞けば炭とりいでてうまから  
片山真実  
海底に夜ごとしづかに溶けるつつあらん。航空母艦も火夫も  
塚本邦雄  
聖母像ばかりならべてある美術館の出口につづく火薬庫

あるいはもっと若い歌人の作品。  
もの言わぬ卑怯について夜の厠出でたるのちも思い継ぎお  
り  
動物園に行くたび思い悩まれる鶴は怒りているにあらずや  
伊藤一彦

「もの言わぬ」の歌は、何についてか具体的には分からない。が、逆にそれ故に高校生でもそこに自分の姿を見出すことはたやすいはずである。

短歌教育は、文化遺産の継承もむろん大事だが（ここで教えないければこの子たちは一生子規や茂吉、節に出会わない、というのわかる）、もっと現代の文学としての生きた短歌教育という面を持つべきである。